

### ○三好達治

三好達治は、明治33年（1900年）大阪に生まれ、その叙情性豊かな詩風から「大阪の生んだ白眉の詩人」と呼ばれている。

その存在が世に知られることとなったのは大正15年、梶井基次郎や中谷孝雄らと刊行した同人誌「青空」に発表した母への思慕の情を詠じた『乳母車』は百田宗次ら多くの詩人に絶賛された。

昭和5年には、初期の詩からその頃書いていた西洋象徴的詩風のものをまとめた最初の詩集「測量船」を出版したが、母への愛を主題とした点は変わらず、その叙情典雅な表現とともに一世を風靡、詩人三好達治の名声を確立した。

昭和9年に堀辰雄や丸山薫らと「四季」（第1～5次あり）を創刊したが、その同人には萩原朔太郎、室生犀星、井伏鱒二、中原中也、杉山平一など忽々たるメンバーを迎え、後に「四季派」と呼ばれ後世の詩人に多大な影響を与えることとなった。

昭和14年に「艸千里」を、同16年には「一点鐘」を出す頃からその名声はますます高くなり、「当代ならびなき詩人」と称された。

その詩は、古典的な叙情をたたえながらも常に清新であり、「万葉にはじまる日本抒情詩の中に一つの近代を確立した」と言われている。

明治33年（1900年）8月23日生

昭和39年（1964年）4月 5日没（墓所は、高槻市上牧2丁目の本澄寺）

### ○三好達治文学碑

大阪市に生まれ大阪市に育った詩人三好達治は、戦前戦後を通じて日本の近代詩史に偉大な功績を残し、昭和を代表する抒情詩人である。大阪市では、三好達治の功績を顕彰するため、昭和56年に中之島に文学碑『乳母車』を建立しており、広く市民に親しまれている。

—碑文—

この道は遠く遠くはてしない道 母よ 私は知つてゐる 紫陽花いろのもののふる道 淡くかなしきもののふる 季節は空を渡るなり 旅いそぐ鳥の列にも つめたき額にかむらせよ 赤い総 <small>ふさ</small> ある天鷲 <small>びろおど</small> 絨の帽子を 泣きぬれる夕陽にむかつて 麟々 <small>りんりん</small> と私の乳母車を押せ 時はたそがれ 母よ 私の乳母車 <small>うばぐるま</small> を押せ そうそうと風 <small>かぜ</small> のふくなり はてしなき並樹 <small>なみじ</small> のかげを 紫陽花 <small>あぢさゐ</small> いろのもののふるなり 淡くかなしきもののふるなり 母よ—	乳母車 三好達治
--	-------------